

## ～CONCORD LOVE～

七飯高校 2年 中村 美咲

私は心に大きく残っている2つのことを書きたいと思います。

まず1つは、コンコード・カーライル高校のみなさんと合同演奏をしたことです。去年の4月、姉妹校提携記念コンサートで初めて合同演奏をしたときに、とても悔しく悲しい思いをしました。それから私は二度とあんな思いはしたくない！という一心で勉強も部活も頑張るようになりました。また、コンコードに行く3カ月前から七高の生徒8人+大沼中の生徒1人の9人で和太鼓の練習を始めました。和太鼓のメンバーに誘われたとき、自分で和太鼓を演奏して日本の伝統的な楽器、音楽の素晴らしさを伝えることができるんだと思い、すぐ参加することを決めました。練習は思っていたより大変で練習があった次の日は必ず体中筋肉痛になるほどでしたが、男爵太鼓のみなさんの熱い指導の下、諦めずにみんなで励まし合いながら頑張りました。

アメリカに着いた翌日から早速練習が始まりました。練習は2日間あったのですがなかなかカーライル高校のみんなに話しかけることができず言葉の壁を感じてしまい、ますます話かけられずに本番の日を迎えました。

まず、オープニングは和太鼓の演奏から始まりました。演奏曲の「花戦」に込めた思いを届けたい、今までで最高の演奏をしたいという思いで、一生懸命太鼓を打ちました。終わって、顔を上げるとたくさんの拍手をもらい、頑張ってよかったと思いました。その後カーライル高校だけの演奏と七高だけの演奏が無事に終了し、最後に合同演奏が始まりました。ステージにいる奏者と客席にいるお客さんが一体となり、楽しくのびのびと吹くことができ、みんなの心が音楽を通してつながっているような気がしました。全ての演奏が終わり、起立をしたとき、人生で初めてスタンディングオベーションというものを体験しました。あの感動は一生忘れることができないでしょう。合同演奏中、ずっと隣同士で吹いていたけど一言も話しをしていないし、それどころか目も合わせてくれなかったKevinという男の子に「Good Job!」と満面の笑みで言われ、嬉しくて私も負けじと「Good Job!!」と言い返しました。やはり音楽は想像を遙かに超える大きな力があると思いました。



バンドルームにて

2つ目はホームステイについてです。このことは私の中にあった不安の一番の要因でした。言葉は？食事は？洗濯は？ホストファミリーはどんな人？など…とにか



帰りの空港で



ホストファミリー宅リビングで

く全部が不安で心配でしたがそれは結局不要な悩みでした。私のホストファミリーはとっても優しく、本当の家族のように接してくれました。言葉が通じなかったら辞書で調べたり、ジュスチャーで一生懸命伝えてくれました。いつも気にかけてくれていて、食事のことや洗濯のことを聞いてくれたり、退屈しないようにショッピングやボーリングや図書館に連れて行ってくれました。毎日朝と夜は家族全員で食事を取り、その日の予定や出来事を話してコミュニケーションをとっていました。日本の私の家では自分の好きなときに食べることが多く、朝に家を出る時間も帰宅する時間もバラバラで家族全員が1つの場に集まることが少ないので、とても新鮮でした。毎晩夕食のあとは、日本とアメリカのことをお互いに教え合ったり、テレビゲームやジェンガなど色々なことをして遊びました。コンコードで行ったパーティーやショッピングももちろん楽しかったですが、私にとってはホストファミリーと家でコミュニケーションをとることが何よりも楽しく、心の休まる時間でした。最後にはホストファミリーからたくさんのプレゼントをもらいましたが、それ以上にたくさんの愛と良い思い出をもらいました。今でもメールを交換していて近況を聞くと楽しかった思い出が蘇ってきてコンコードの町やホストファミリーがとても恋しくなります。

旅行から帰ってきて、私英語に対する考えが変わりました。「テストがあるから」「なんとなく便利そうだから」という気持ちで勉強していましたが、今では世界共通語である英語は多国の人と話し、コミュニケーションをとることができるし、自分の視野をぐっと広げることができるものだと思うので、もっと勉強をして上手になりたいと思っています。

こんなに素晴らしく貴重でかけがえのない経験をする事ができたのは七飯の町長さんを初め、役場の国際交流の方々、コンコードの先生方、七飯高校の先生方、そしてアメリカと日本の家族のおかげです。この経験をこれからの自分の人生歩いていく上でたくさん生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

また、いつかコンコードの方々と関わる機会があるならば、たくさん親切にしてもらった分、2倍、3倍…いや、5倍でお返ししたいです。